

教養コース ④ 国際社会学

混迷の中東を読み解く

第四回

アラブの春と中東秩序の激変

—中東の社会・経済状況の深刻化—

—講師 清水 学氏

日 時 2020年9月19日(土) 10:00~12:00
場 所 鶴瀬公民館 第三集会室
講 師 尾崎 清水 学氏
(元アジア経済研究所研究員・元帝京大教授)
受講者数 20人

清水先生の研究範囲としては、長くインド、中東、中央アジアの国々、南側の地域から世界を見てきた。今までの講師の話と重なるところを補足しながら、広い意味の中東を示しながら中東世界を理解できるようにも目指す。

まず、中東の地図をスクリーンに大きく映されて、色別された国々を概観した。

本日の主たるテーマとして

1. 現代の中東を見る視点
2. アメリカ大統領選挙と中東情勢
イスラエルを巡る動き USEなどイランの封じ込め
3. アメリカとイスラエル
シオニズムの理解 イスラエル・パレスチナについての補足
4. 中東の主役の変化

1から4までのテーマに沿って講義が始められた。



講師 尾崎 清水 学氏

1. 中東世界を理解する基本的な視点について

第1の視点 中東世界の3つの深層底流

(1) メディアは、パレスチナ問題は終わりという感じだが、一部には異なる見方を取る記者もいる。イスラエル・大国の覇権主義に対する抵抗は消えない。2、3年後にはどうなるか分からない。

(2) 1911年「アラブの春」が示した中東の王政にとっては悪夢、恐怖感

(3) ポスト石油化時代

アメリカはガス輸出国、石油に依存している中東産油国に対抗、国際エネルギーの変化が見逃せない。

第2の視点 中東世界で影響力が強く、特に注目すべき国（国家レベル）

(1) アラブ首長国連邦（UAE）・サウジアラビア・エジプト・イラク・シリアの影響力が大きい。

(2) トルコ エルトワン大統領、オスマンの指導者でアラブへの影響力が大きい。

第3の視点 社会的文化的変動

(1) イスラームの存在形態 宗教の存在が低下

(2) ジェンダー問題

(3) 揺らぐアイデンティティ（帰属意識）

中東地域も三重苦の渦中

・新型コロナの蔓延

・世界経済不況に伴う石油需要・油価の低迷

レバノンの対外債務返済停止とベイルート港湾での化学薬品倉庫の大爆発は最悪の事態

・地域間対立の激化 東地中海、リビア、トルコとフランスなど

・アメリカはアフガンから手を引きたい タリバーンは存在し続ける

シリアはロシアの支援があり、アサド政権は倒れない。



2. 米大統領選と中東問題の重要性

・トランプ家とユダヤ人のコネクション トランプにとって重要な福音派の支持(5~600万票を持っている)アメリカの人口の4分の1が福音派。

・アメリカの中にあるイスラエルの安全保障とアメリカの安全保障を一体的に考える見方が強い。

・イスラエルの国際法無視 パレスチナへの不法な占領地を領地化、大使館イスラエルの首都を中立地のエレサレムに移転

・トランプの強硬なイラン政策の背景にパレスチナ問題がある。

米大統領戦を前にした中東地域の変動 9月15日、ホワイトハウスで湾岸諸国がイスラエルを承認し関係正常化

3. アメリカとイスラエル

シオニズムの理解とイスラエル・パレスチナについての補足

トランプ大統領を支える福音派

トランプの中東政策 イランの封じ込め、経済制裁(イランの経済的なひっ迫を強めさせる)

シオニズムの複雑性

トランプ家とユダヤ人コネクション

政治的シオニズム アメリカの福音派はキリスト教シオニスト

反ユダヤ主義と反シオニストを区別する必要がある。

政治的シオニズムの思想的源流

イスラエルと略史

イスラエル占領地(西岸・ガザ・ゴラン高原)とパレスチナを中心とした地図

イスラエル経済とアメリカ・イスラエル間の特殊な関係



5. 中東の主役の変化

イランへの不信感の再度の高まり

アラブ世界内の構造変化

(1) 2011年「アラブの春」

(2) 反体制勢力 ハマース、ムスリム同胞団などへの対抗がパレスチナ問題を二議的なものにした。

(3) カタールへの警戒 アラブの春や同胞団へ好意的な対応をした。

2017年、突然に対カタール断交の動きは湾岸諸国の警戒心の現れ。

アラブ世界での政治的指導権が湾岸諸国に移転

経済力があり、「アラブの春」以降危機感を募らせた湾岸の産油国(サウジアラビア、UAE)にアラブの主導権が移っていった。

UAE(アラブ首長国連邦)皇太子ムハンマド・ビン・ザイドについて

UF35(最新鋭ステルス戦闘機)の売却問題 兵器を売却したいアメリカ

トランプ政権がUAEに売却を検討中。イスラエルは中東の軍事的優位性が崩れるとして反対を表明。

質疑応答

・国連の無力さについて

中東戦争後の力関係の変化、アメリカの介入など

・イスラエルとの国交正常化とパレスチナの関係は、今後の行方について